

令和4年度3学期始業式あいさつ

皆さん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。

毎日寒い日が続きますが、今朝、皆さんが元気に登校して、挨拶してくれる姿を見て、心が温かくなりました。年が改まると身も心も一新したくなります。「今年は」と新たな気持ちで登校してきた人が多いと思います。

今日から3学期が始まります。3学期の位置づけは各学年で大きく異なります。1年生にとっての3学期は、学習面では基礎・基本の定着、徹底を図り、部活動では後輩を迎える先輩としての自覚が求められる時期です。2年生にとっての3学期は、3年生0学期という位置づけで、進路に関して本格的に取り組み、部活動や暁高祭など高校生活の集大成に向けてさらに成長が求められる時期です。そして3年生にとっての3学期は、いよいよ受験シーズン本番で、希望する進路実現を成す時期です。

私は2学期の終業式で、大切なのは「自分を信じること」、「最後まであきらめないこと」、「体調をしっかり整えること」だと言いました。今日はその話をもう少し深掘してみたいと思います。

皆さん、心理学者のアドラーを知っていますか。ベストセラーとなった『嫌われる勇気』や『幸せになる勇気』を読んだ人もいると思いますが、アドラーはフロイトやユングと並び称される心理学者で、個人心理学を創始し、自らの劣等感を克服しようとする前向きな人間像を描いた人です。アドラーの考え方は、私たちに勇気を与えてくれるものが多いので、その一部を紹介したいと思います。アドラー心理学の中核となるキーワードは3つあります。一つは「劣等感」、一つは「勇気」、そしてもう一つは「共同体感覚」です。

アドラーは、困難な状況を克服することについて、「どんなに優秀に見える人にも劣等感は存在する。人間は、目標がある限り劣等感があるのは当然なのだ。問題なのは、劣等感を言い訳にして、努力を放棄し、課題から逃げること（劣等コンプレックス）である。人生に困難はつきもので、困難を克服する活力こそが勇気である。困難を克服する勇気を持て。過去を悔やむのではなく、未来を不安視するのでもなく、今現在の『ここ』だけを見るのだ。遺伝もトラウマもあなたを支配してはいない。どんな過去であれ、未来をつくるのはあなた自身である。」と述べています。

さらに、アドラーは、「周りの人が自分を援助してくれること」、「自分は周りの人に貢献できること」、「自分は仲間の一員であること」という3つがとても大切で、これを共同体感覚と呼んでいます。そしてこの共同体感覚が様々な困難から解放してくれると述べています。

周りがサポートしてくれるから自分も頑張れる。自分が頑張れば周りもサポートしてくれる。仲間意識がある。どうですか？アドラーの言う共同体感覚が暁高には根付いていると思いませんか。高校生活も受験も団体戦です。皆さん、暁高生としての誇りをもって、勇気をもって、自分を信じて、周りを信じて、受験も3学期もチャレンジしてください。期待しています。

最後に、暁高は今年で創立120周年を迎えました。暁高創立以来ずっと受け継がれてきた生徒と教職員が一緒になって頑張り、ともに高め合うという伝統を今年もみんなで大切にしていきたいと思います。今年もよろしくお祈りします。

以上で、3学期始業式の挨拶を終わります。